

灸道湖



今号の表紙

松江城

令和8(2026)年『新年のご挨拶』	2
An der schönen, blauen... ..	3
ふれあいまつりについて	4
令和7年度 松江医療センター懇話会・ 地域医療連携交流会を開催しました	5
令和7年度 還暦・20歳を祝う会 喜びと感謝 ～みんなにありがとう～	6

医療に役立つ放射線	8
「がん化学療法看護認定看護師/ 看護管理者として、がん患者さんご家族に寄り添います」	9
新人紹介	10
衝撃緩衝フロア導入について	11
外来診療表	12

独立行政法人国立病院機構松江医療センター

松江市上乃木5丁目8番31号

TEL0852-21-6131



令和8(2026)年「新年のご挨拶」

院長 古和 久典

新年あけましておめでとうございます。地域の皆さま、患者さん・ご家族の皆さま、そして日頃より当院の医療を支えてくださっている関係機関の皆さまに、心より新年のご挨拶を申し上げます。

2026年は干支でいうと「丙午（ひのえうま）」の年です。馬は前へ進む力や行動力の象徴とされ、「丙」には、内にあるエネルギーが少しずつ形になっていくという意味があるそうです。大きく飛躍するというよりも、足元を確かめながら着実に進んでいく——そのような一年にしたいと考えています。

昨年2025年を振り返りますと、医療を取り巻く環境の変化が、日々の業務の中で実感される場面の多い一年でした。業務の進め方や体制を見直す必要に迫られることもあり、慌ただしさを感じた方も多かったのではないのでしょうか。そのような中でも、患者さんの安全と安心を第一に考え、日常の診療を積み重ねてくださったことに、あらためて感謝いたします。日々の何気ない対応や工夫の積み重ねが、病院の力になっていると感じています。

当院はこれまで、重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病といった長期にわたる医療的支援を必要とする方々の診療を大切にしながら、呼吸器をはじめとした一般診療も担ってきました。医療資源が限られる地域におい

て、当院の機能や専門性を生かし、医療的・社会的に配慮を要する患者さんに継続して寄り添う医療を提供することは、これからも変わらず大切にしていきたいことの一つです。

病院を取り巻く状況は決して楽なものではありませんが、地域の医療機関や福祉・介護施設、行政との連携を重ねながら、当院に求められる役割を一つひとつ丁寧に果たしていくことが、結果として地域の安心につながると考えています。「この病院が身近にあってよかった」と感じていただける存在であり続けられるよう、日々の積み重ねを大切にしていきたいと思います。

そして、そうした医療を支えているのは、現場で働く職員の皆さんです。患者さんに向き合う姿勢、職種を越えて支え合う姿、忙しい中でも工夫を重ねて業務に取り組む姿を、日々の中で目にしています。患者さん・ご家族にとって安心できる場所であると同時に、職員一人ひとりが無理なく力を発揮できる病院であることも、大切にしていきたいと考えています。

丙午の年にあたり、急がず、しかし歩みを止めることなく、できることを一つずつ積み重ねていく一年にしていきたいと思います。本年も、地域とともに歩む病院として、どうぞよろしくお願いいたします。

An der schönen, blauen...

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

この写真。ハンガリーの国会議事堂とドナウ川。

もう何年前になるのでしょうか？オーストリアのウィーンでヨーロッパ呼吸器学会が開催されました。自分も演題を出し、発表しに行きました。当時の副院長であったY先生との二人旅。いろんなことがあり楽しい旅でした。



ウィーンから少し足を伸ばして（といっても3時間ほど特急列車に揺られて）国境を越え、ハンガリーのブダペストへ。観光名所のくさり橋を渡りながら見たのがブダペストを「ブダ」と「ペシュト」に分ける大きな川。そう、美しく青きドナウ（An der schönen, blauen Donau：ヨハン・シュトラウス2世作曲）で有名なドナウ川です。広く雄大でとても穏やかな流れでした。その雄大なドナウ川の側には美しい国会議事堂。なんとも素晴らしい眺めでしばらく見入ってしまいました。このドナウ川の源流は海拔1,000mの山間部にあるんだそうです。山の土壌や岩盤で濾過されたきれいな水が湧き出してあの大きな川へとつながり、肥沃な大地と素晴らしい景色を作り出しているのです。

PCを整理していて、この写真を見つけて、ふと思ったこと。源流が途絶えてしまえばやがて川は尽きてしまう。きれいな水が湧き出さなければやがて川は汚れてしまって、An

der schönen, blauenとは称えられない・・・。

"ふるさとは遠きにありておもふもの"

と詠んだ室生犀星は、その筆名の由来となった北陸を流れる犀川について

"うつくしき川は流れたり そのほとりに我は住みぬ"とも詠んでいます。

"うつくしき川のほとり"に住んでいただくには"きれいな"水が流れていないといけないのです。

組織のリーダーは上流からきれいな水を流さないといけません。そうする責任があるのです。きれいな水を流していけばスタッフの皆さんも働きやすいはずだし、患者さんもハッピーになれるはず。An der schönen, blauen...と誰もが感じるように、きれいな水を作り出さないといけないのです。それが私たちの仕事。

と真面目に考えてみた2026年のお正月。

今年もみんなで頑張っていきましょい！！

ふれあいまつりについて

経営企画係長 中元 大

10月18日、『ふれあいまつり』を開催しました。コロナ禍で一時中断していましたが、昨年から再開し、今年も多くの方にご来場いただきました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



当日は天候が心配されましたが、午前中は晴れ間が広がり、屋外ステージでは松江商業高校吹奏楽部と古志原金管バンドクラブの皆さんによる迫力ある演奏が披露されました。軽快なマーチや親しみやすいポップスが響き渡り、来場者からは盛大な拍手が送られました。音楽に包まれた会場は笑顔であふれ、世代を超えて楽しめるひとときとなりました。

屋内では、市民公開講演会や体験コーナー、展示を実施しました。講演会では「その息切れ、ホントに"歳のせい"?」をテーマに、呼吸器内科の門脇先生が加齢だけではない息切れの原因や、日常生活で注意すべきポイントを分かりやすく解説しました。体験コーナーでは、調剤体験、ロボットスーツHALの紹介、心肺蘇生体験など、実際に手を動かしながら学べる内容が好評でした。さらに、もの忘れ相談やInBody測定で健康状態を確認する方も多く、幅広い世代にご参加いただきました。患者さんの作品展示や医療職の仕事紹介にも多くの方が立ち寄り、力作や医療現場の様子に関心を寄せていただきました。



午後からは、KTTや松江ギター協会の皆さまによる弾き語りや演奏が外来や病棟で行われ、入院中の患者さんやご家族にとって心安らぐ時間となりました。音楽の力で笑顔が広がる様子は、ふれあいまつりの意義を改めて感じさせる場面でした。

開催にあたり、患者さんの移動支援や演奏のボランティアなど、多方面でご協力いただいた皆さまに深く感謝申し上げます。皆さまの温かいサポートがあったからこそ、ふれあいまつりを円滑に進めることができました。

今後も地域に根ざした医療機関として、皆さまとのつながりを大切にしながら診療に取り組んでまいります。次回も皆さまとお会いできることを楽しみにしています。



令和7年度 松江医療センター懇話会・ 地域医療連携交流会を開催しました

地域医療連携室 地域医療連携係長 平野 和子



10月16日（木）、ホテル一畑で日ごろお世話になっている地域の開業医の先生、近隣の病院の先生方にご参集いただき、松江医療センター懇話会・交流会を開催しました。

懇話会では、深田脳神経内科医長による『抗A β 抗体療法によるアルツハイマー病治療の現在』、奥村医院院長 奥村剛清先生による『松江地域糖尿病対策会議について』の講演を行いました。

交流会では、古和久典院長、松江市医師会会長 細田眞司先生の開会の挨拶に続き、島根



県医師会会長 森本紀彦先生からお言葉を頂戴しました。松江市医師会から協賛をいただき、院外より51名の参加申し込みがありました。また、院内からも43名の参加がありました。各テーブルで「交流会は通常医師同士となることが多い中で、看護師やコメディカルの方々とゆっくり会話ができて良かった」「日頃お世話になっている先生と直接

顔を見て話しができて良かった」等のご意見をいただきました。地域医療の連携は、患者さん、ご家族の方々が安心して継続的な医療を受けるために不可欠な取り組みです。交流会で深まった連携をさらに発展させ、より質の高い地域医療体制を構築していきたいと思っています。



お忙しい中、ご参加いただいた開業医・病院の先生方、交流会にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、変わらずご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



令和7年度 還暦・20歳を祝う会 喜びと感謝 ～みんなにありがとう～

療育指導室 主任児童指導員 松原 未歌

当院では還暦と20歳を迎えられる方へお祝い会を実施しています。今年度は対象者の「還暦と20歳を迎えることができた喜びとこれまで一緒に歩んできた家族や、関わってきた人々への感謝の気持ちを



伝えたい」という思いをもとに「喜びと感謝～みんなにありがとう～」をテーマに企画しました。

第一部は半田稔晴さんと中村昭治さんが病棟デイルームを会場に一緒に生活をしている患者さんと職員とともに還暦お祝い会を行いました。病棟看護師長をはじめ受け持ちの看護師や療養介助専門員からの温かいメッセージと患者さんから手作りの花束が二人に送られました。二人から

らは還暦を迎えた喜びと感謝の気持ちをベートーベンの「よろこびの歌」に込めてトーンチャイムを演奏しました。

第二部は還暦を迎えられた赤木隆さん、半田稔晴さん、中村昭治さんと20歳を迎えられた佐藤翔琉さんが療育訓練室に集まり、来賓および家族と病院職員とともに還暦・20歳を祝う会を行いました。

赤木さんと佐藤さんは羽織袴を半田さんと中村さんはスーツといったもとは違う装いで会に臨まれました。式典は病棟看護師長からの対象者紹介に始まり、院長による式辞、来賓による祝辞が続き、結びに還暦の対象者を代表して赤木さん、20歳の佐藤さんの二人が答辞を読み上げられました。赤木さんの答辞は自身が歩んだ60年を振り返り、家族と一緒に生活



をともにしている仲間と先に旅立っていった仲間、病院職員への感謝を述べられ、新たなことに挑戦していきたいという思いを宣言されました。佐藤さんの答辞は20歳を迎えた喜びと自身の好きなことや人とのこれから挑戦したいことについて、緊張した面持ちでしたがはつらつと読み上げられま

した。式典の後は全体の集合写真と個々の記念写真を家族や職員と一緒に撮る和やかな時間になりました。

第三部は佐藤翔琉さんの「みんなにありがとうを言いたい！」という思いを実現するため謝恩会を行いました。まず、佐藤さんの大好きなコーラでこれからの更なる成功と健康を祈念し、鏡開きで会が始まりました。佐藤さんの「せーの」に続いて、みんなで「よいしょー」の掛け声。鏡開きの掛け声は大きい声であればある程、運が舞い込んでくると言われていますが、会場いっぱいに響く「よいしょー！」でした。乾杯の音頭は主治医の久保田先生にお願いし、



この時もまた会場いっぱいに「かんぱ〜い!!」の発声が響き、コーラを飲んだ佐藤さんの「うまい！」に参加者みんながほっこりしました。そして、佐藤さんにこれまで関わってきた方々から一緒に過ごしたエピソードが話され、佐藤さんからは感謝のメッセージを伝えました。最後は、佐藤さんからのお礼の言葉とベートーベンの「よろこびの歌」の演奏で会がお開きとなり、



感謝の気持ちのメッセージカードを手渡し、参加された方々をお見送りしました。

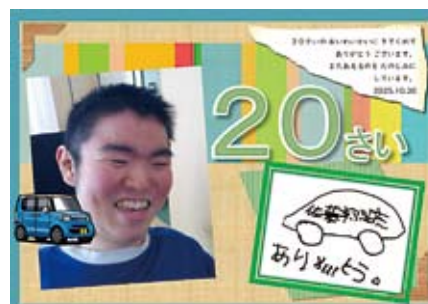
コロナ禍を経たことや患者さんの高齢化と重症化にともなって、病棟デイルームや療育訓練室に多くの患者さんが集まり、行事を行う機会が減っている現状があります。しかし、病棟スタッフの協力を得て、たくさんの患者さんが集まることができ、身近な方と一緒に祝いすることができました。また、赤木さんがAIを使用し作詞作曲をしたBGMを式典で流し、これまで自費制作した写真集の展示も行うことで、患者さんの日頃の活動やその人らしさをさまざまな方に知ってもらう機会にもなりました。



最後になりましたが、還暦・20歳を祝う会では病院外部の方を来賓としてお招きし、院内のさまざまな部署の方々の協力を得て実施しています。今年度は対象者の「人生の節目をこれまで一緒に歩んできた人たち



へ感謝の気持ちを伝えたい」という思いを実現することができたと感じています。ご協力いただきましたみなさま、本当にありがとうございました。



医療に役立つ放射線

診療放射線技師長 楠 貴宏

放射線検査は医療現場において不可欠なツールです。しかし、被ばくのリスクもあるため、不安を感じられる方もいらっしゃるかもしれません。

そこで今回、医療における放射線について簡単に述べていきたいと思います。

放射線とは

科学的にいうと高いエネルギーを持った高速の粒子（粒子線）と高いエネルギーをもつ短い波長の電磁波の総称です。

私たちの目には見えません。物質を透過する性質があります。

放射線の人体への影響

放射線は人体の細胞の中を通り抜けるとき、細胞を構成するDNAを傷つけてしまいます。少ない量であれば、修復機能により元通りに治りますが、修復機能の限界を超えると影響が出始めます。

医療で使用する放射線

医療で使用する放射線の被ばく量は、胸部X線検査では約0.06mSv、胸部CT検査では約2 mSv～10mSv程度です。

（大地、宇宙、食べ物などから受ける自然放射線は年間約2.1mSv）

医療における放射線の使用は、以下の原則に基づき厳しく管理されています。

- 正当化・・・検査や治療による利益が、それに伴う放射線による不利益を上回る場合のみ放射線を使用します。
- 最適化・・・診断に必要な情報を得るのに、線量を合理的に達成可能な限り低く抑えます。

放射線の防護

放射線防護の3原則は、「時間」、「距離」、「遮へい」です。

- 時間・・・放射線を受けている時間を短くします。
- 距離・・・放射線源から離れるほど、被ばく線量は減少します。
- 遮へい・・・放射線と体の間に、適切な物質を置くことで放射線を遮ります。

医療で受ける被ばく線量は、自然界から受ける線量やその他の健康リスクと比較して非常に小さいものです。

医師や放射線技師は、病気の診断や治療という、最大の利益を得るために、最小限のリスクで放射線を使用しています。

もし放射線検査で不安を感じられる方は、お気軽にご相談ください。



がん化学療法看護認定看護師/看護管理者として、 がん患者さんご家族に寄り添います

外来看護師長 がん化学療法看護認定看護師 永瀬 美沙

私は平成26年6月にがん化学療法看護認定看護師認定審査に合格し、日々がん薬物療法を受けるがん患者さんご家族に関わっています。東京築地の国立がんセンター中央病院で長年勤務の後、国立病院機構米子医療センター勤務を経て、令和7年4月に当院に看護師長昇任で赴任いたしました。



現在、外来化学療法室で治療を受けられる患者さんご家族だけでなく、入院中の患者さんご家族にも組織横断的に関わらせていただいています。



がん薬物療法は日々進歩しており、治療と向き合いながら過ごす時間はさらに長くなっています。がん薬物療法は、抗がん剤（化学療法）、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬に大きく分けられます。がん薬物療法は患者さんの命を救い、その後の人生や生活を充実させるための重要な治療です。がん薬物療法看護のポイントは、①安全ながん薬物療法の実施 ②安心して治療を継続するための支援 ③副作用のマネ

ジメント ④意思決定支援です。肺がんの薬物療法は、特に遺伝子検査や薬剤が進歩し、治療の選択肢が広がっています。だからこそ、がん患者さん一人ひとりに合わせた治療を選択することが重要で、患者さんの意思決定支援がとても必要となっています。私は、がん患者さんが治療を受けながらもその人らしく過ごしていけるように、それぞれの方の生きてきた背景や大切にしていることなどを大事にしながら、関わっていきたく日々努めています。がん患者さんご家族との時間は私の宝物になっています。

認定看護師の役割は実践・指導・相談であり、スタッフの指導・教育にも注力しています。現在、肺



がん化学療法院内認定看護師や肺がん化学療法エキスパートナースの育成を行い、院内のがん看護力底上げを図っています。スタッフと共に学び、共に考えることで、私自身も成長させてもらっていると日々感じています。今後のがん薬物療法に関わる医師、薬剤師、看護師、栄養士、リハビリテーション、MSW等がチームになり、皆で取り組み、がん患者さんご家族のQOLを高めていけるよう支援していきたいと思っています。

がん薬物療法を受ける患者さんご家族はもちろん、その他のがん患者さんご家族のお悩みや気にかりにも対応しています。お気軽にお声がけください。肺がんサロンにもお気軽に足をお運びください。

新 人 紹 介

4階東病棟 看護師 中澤 萌

私は岡山医療センター附属岡山看護助産学校を卒業し、令和7年4月から松江医療センター4階東病棟で働いています。4階東病棟にはパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症などの疾患を患った患者さんが多く入院されています。

就職当初は分からないことも多く、患者さんのことを考えながら看護を行うことの大変さを痛感する毎日でした。そんな毎日の中でも周りの先輩方が常に気にかけて下さり、困ったときに声をかけやすい環境を作ってくださっています。

ある時、私は先輩方と転倒リスクの高い患者さんの環境調整を行いました。患者さん本人だけでなく、リハビリテーション科の職員にも協力していただき、患者さん自身が自宅でどちらからベッドを降りるのか、どういう動作時に転倒リスクが高くなるのかなど、患者さんの了承を得て、転倒につながらないような環境調整を行いました。患者さんから、「過ごしやすくなったよ。ありがとう。」と言われた時に、患者さんの生活背景を踏まえて自宅でのベッド周りの環境に近づくことで、病院での慣れない環境の中でも転倒することなく過ごしてもらえるように関わることの大切さを改めて感じました。

これからも患者さんの生活背景を踏まえながら、個別性を大切にした看護を提供できるように日々努力していきたいと思っています。



衝撃緩衝フロア導入について

医療安全管理係長 榎本 治美

当院では、転倒転落対策の取り組みとして、転倒転落防止ラウンドチームを作り、週2回転倒転落ラウンドを実施しています。ラウンドの際には、患者さんの病状、歩行状態、日常生活での動きを、



現場のスタッフと共有しながら環境調整を行います。そして、転倒転落防止における対応の1つとして、ベッドサイドに敷く衝撃緩衝マットを2024年5月に試験的に使用し、普段は固く転倒時には衝撃緩衝される床材であることを確認できたため、2024年6月から本格的に転倒転落対策として導入しました。

その結果、使用前の1年間より、使用後の1年間の転倒転落数に減少がみられました。さらに、転倒があっても骨折などの事故は発生していません。

そこで、2025年6月17日より、ベッドサイドの設置のみでなく、1部屋「衝撃緩衝フロア」を導入しました。「衝撃緩衝フロア」の病室は、入院時の転倒転落リスクが高く、生活動作で洗面台やトイレへの歩行をされる患者さんへ主に使用していただいています。部屋全体が「衝撃緩衝フロア」になっているため、現在まで転倒転落した際も衝撃緩衝され骨折などの事故は発生していません。

一般病室の患者さんについても、多職種と共同して患者さんの状況を現場のスタッフと共有しながら、衝撃緩衝マットの活用を行い、入院後の療養環境の安全を図り、転倒転落事故防止に取り組んでいきます。



松江医療センター 外来診療表

令和8年1月1日現在

診療科	曜日	月	火	水	木	金	各診療科医師一覧・専門分野等	
呼吸器内科		岩 本 (初診)	坪 内 (初診)	木 村 (初診)	門 脇 (初診)	池 田 (初診)	池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 岩本 信一 坪内 佑介	呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
呼吸器外科		目 次		目 次		目 次	目次 裕之	呼吸器外科・一般外科
脳神経内科 (予約優先)		渡 辺	古 和 (予約制)	深 田	足 立 中 野 細 田	(交替制)	古和 久典 足立 芳樹 渡辺 保裕 下山 良二 深田 育代 細田 義人 中野 俊也	脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科・リハビリテーション 脳神経内科 脳神経内科 脳神経内科
循環器内科						生 馬	生馬 勲	循環器一般
消化器内科		法 正					法正 恵子	消化器内科領域
小児科	小児科発達 専門外来 (予約制)	久保田 (初診・午後)	久保田 (午前のみ)		久保田 (午前のみ) 前 垣 (第2木曜のみ)		久保田智香 前垣 義弘	重症心身障害・小児神経・摂食機能障害・発達障害 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害・発達障害
	予防接種		(予約制)				●小児科発達専門外来(予約制) 月曜日(初診) 13:00~15:00 火・木曜日 9:00~12:00 ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。授業、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。	

特殊外来・セカンドオピニオン・検診

曜日	月	火	水	木	金	診療時間・診療内容
睡眠時 無呼吸外来				呼吸器内科 担当医(予約制)		14:00~16:00 いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
息切れ外来		池 田 (予約制)				13:00~15:00 息切れの診断と治療を行います。
喘息 アレルギー外来					池 田 (予約制)	9:00~12:00 成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
慢性咳嗽外来					池 田 (予約制)	9:00~12:00 3週間以上長引く咳(せき)や喉の異常感でお悩みの方。
禁煙外来				呼吸器内科 担当医(予約制)		9:00~9:30 禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
アスベスト 外来		(予約制)	(予約制)	(予約制)		8:30~11:00 石綿(アスベスト)曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
もの忘れ 外来			深 田 (予約制)			9:00~12:00 もの忘れの診断と治療を行います。
ボツリヌス 療法外来	(予約制)	(予約制)				9:00~12:00 痙縮(筋肉のつっぱり)に対して、筋肉の緊張をやわらげる薬剤(ボツリヌス毒素)を注射して痙縮を軽減させる治療を行います。
セカンド オピニオン外来	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	紹介状が必要です。 呼吸器内科・呼吸器外科・脳神経内科・小児科(筋ジス)の専門医(医長)が担当いたします。
肺がん検診	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	(予約制)	11:00~11:30 ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。 料金5,500円

【診療・受付時間(年末年始を除く平日)】

診療時間	8:30~17:15
受付時間	8:30~11:30
自動再来機受付時間	8:00~11:30

【連絡先】

(患者さん・ご家族の方)病院代表
電話 (0852)21-6131
(医療機関の方)地域医療連携室直通
電話 (0852)24-7671 FAX (0852)24-7661



国立病院機構松江医療センター 〒690-8556 松江上乃木5-8-31